

発明の日記念講演会 開催

「成功・失敗事例から学ぶ”稼ぐ力”のヒント」

～貴方の会社を救う知的財産活用の戦略～

皆様ご存知のとおり4月18日は「発明の日」であり、この発明の日を含む1週間を「科学技術週間」として、全国各地で科学技術や発明に関するさまざまな行事が催されています。大阪発明協会では、近年は「発明の日」を記念する行事を開催しておりませんでした。今年度より会員サービスの一環として、記念講演会を開催することになりました。開催にあたっては、WIS知財コンシェル株式会社の協力のもと、中小企業知財戦略研究所所長並びにWIS知財コンシェル株式会社顧問として、三菱電線工業株式会社時代より一貫して知的財産分野において多方面で活躍されてきた、生島博氏を講師にお迎えいたしました。

知的財産の観点から、企業にある優れた技術や独自ノウハウを競争力に変え成功した事例、他社との差別化に失敗した事例を交えて、企業が所有する資源の中で「稼ぐ力」に成り得るものは何か、をテーマとした本講演会には、タイムリーなテーマということもあり、約40名の参加者を集め、盛況の中での開催となりました。まず初めに、日本産業の現状をデータで確認し、日本企業の知財戦略の過ちを認識した上で、これからは知財戦略を重視したグローバルな経営戦略が必要であることが説明されました。続いて、ビジネスにおける知財施策の実態がどのようになっているのか、また企業の知財戦略の失敗事例から見た知財の必要性を認識し、知財の経営的効果や企業業績との関係性をデータ等で確認することで、知財が企業の「稼ぐ力」になり得ることを力説されました。さらに後半では、特許や実用新案、意匠、商標、著作権、営業秘密やノウハウを知的財産の「5人の侍」になぞらえ、それぞれ単独に活用していくのではなく、これらを複合的に組み合わせることで、企業にとって「稼ぐ力」としての知財を経営戦略の重要なツールとして際立たせ、この知財5人の侍をどのように活用していくか、知財戦略を取り入れたグローバルなビジネス戦略の構築がこれまで以上に武器になっていくことが述べられました。



豊富な経験に基づくわかりやすい事例と、知財を5人の侍になぞらえた親しみやすい例え、そして参加者を引きつける生島氏の語り口は、参加者からもイメージとしてわかりやすいと大変好評であり、年度初めの意識付けという点においても大変有意義な講演会であったと思われます。

当協会では来年度以降も、発明の日を記念する講演会を実施していく予定です。